〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （国　語）

東京都北区立滝野川第四小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	文字を読んだり書いたりすることはおおむねできるが、文章を書くことに苦手意識をもったり、書かれている内容が正しく理解できなかったりする児童が若干名いる。また、聞かれていることに答えることが苦手な児童も数名いる。くっつきの「は」「を」「へ」、拗音・撥音・長音については繰り返し学習する必要がある。	内容の理解においては、「誰が」「いつ」「どうした」など、どこに何が書いてあるのか項目を一つ一つ確認しながらを読み取る力を育んでいく。「書く」ことについては、短作文の宿題を設定するなどして、日々積み重ねることで作文に抵抗感をなくし、力をつけられるようにする。同時に書き言葉を正しく表記する意識ももたせ	自分の意見はもてるが、発言内容がずれていた場合、聞かれていることに即した内容なのであるか、その都度確認させていく。問いに対する答えがどこに書いてあるのかを確かめるために、発展的な読み取りの問題に取り組むませる。
2年	前学年までの漢字の読み書きや言葉の順序理解は、おおむね力が付いている。しかし、初見の文章の内容を読み取る力や、問題を理解し、文章に表す力に課題が見られる。意欲をもって問題に取り組めなかったり、難しいと感じる問題を諦めてしまったりすることが課題である。	絵本の読み聞かせをしたり、めあてをもたせ読書活動に取り組ませたりすることで、初見の文章への抵抗感を減らす。また、学習中に自分の思いや考えを文章にして表す活動を増やし、力を付ける。達成感を味わわせることで、最後まで取り組もうとする意欲を高める。	GUタイムでの漢字小テストに加え、視写や聴写の活動を取り入れる。週末に継続して日記の宿題を出すことで、出来事や自分の思いを文章化する経験を増やし、最後まで書けたという達成感を味わわせるとともに、文章を書くことへの抵抗感を減らしていく。
3年	前学年までに既習の漢字の読み書きは概ねできているものの、送り仮名のある漢字の書き取りに課題が見られる。また、物語文や説明文の読み取りでは、内容の大体を捉えることに課題が見られる他、自分の考えを書き表す文章力にも差が見られた。	漢字の学習や宿題では、字形を捉えるだけでなく、文章の中で使いこなせるよう、様々な例を示して指導していく。また、読書の宿題やNIEタイムの新聞記事を通して文意をつかみ、要点をまとめる練習を繰り返し行う他、日記や作文では互いの文章を読み合い、多様な文章に触れさせることで記述の力を伸ばしていく	漢字小テストを繰り返し行い、苦手分野を克服するとともに、様々な場面で漢字を使いこなせるよう指導していく。語彙力の獲得のために、読書を多く取り入れ、「ことば貯金」として蓄積していく。ゲームなどを通して総合的な言語力を高め、表現力や伝え合う力に活用
4年	学習については、積極的に取り組んでいる。全般的に自身の考えを記述することに課題が見られる。問題傾向から資料等からの読み取ったことを整理することを意識的にくり返し書く必要がある。	NIEや他教科の場面において、自分の書きたいことを多く出す学習活動を設定していく。国語科の学習においては、文章を読み取るときに積極的に罫線を引く活動や書き込みができるようワークシートを作成して、書くことへ結び付けていけるようにする。	行事作文において、ワークシートを選択させ自分の思いを表出できる機会を増やす。GUタイムでNIE活動や小学生新聞等を活用し、資料から読み取る場面を日常の中で設定していく。読書の習慣をさらに高めるように、学級文庫や平行読書語を充実させ、文章を読む力を高めたり語彙を増やしたりしていく
5年	漢字は、新出漢字だけでなく、5年生までの既習漢字も反復で読んだり書いたりを繰り返し復習する。言語事項についても、既習事項を話す・聞く・書く・読む領域についても繰り返し捉えられるようにする。	毎日繰り返し漢字の練習に取り組ませ、定期的に漢字テストを行う。新出漢字の練習では、漢字の成り立ち、書き順、熟語にも触れ、漢字の読み書きの力を伸ばしていく。話す・聞く・書く・読む領域については、毎単元、学習のゴールを設定し、いつも同じ流れで学習計画を立て、子ども達に課題意識をもたせて、授業に取り組ませる	語彙力を伸ばすために、常時活動を工夫する。連想ゲーム、クロスワード、言い換えゲーム、ワードゲームの活動を行う。総合や社会など他教科とも横断的な学習を設定し、グラフや図を用いて、意見文を書く。他者意識をもたせ、クラスで伝え合う活動を
6年	文章を書くことや漢字を書くことに課題がある。特に作文などの長文については、どの項目に着目し、どの順番で書けばいいかなど思考の整理がされておらず、所定の字数までたどり着けない児童が多い。	漢字テストを繰り返し行い、漢字の読み書きの力を伸ばしていく。加えて、日頃から、文章を書く際、習った漢字や言葉は積極的に使用するよう声を掛けるようにする。短文を繰り返し書いて徐々に長文へと移行させるようにするとともに、書く活動に重点を置いて作文に対する苦手意識を減らす。	本やインターネットで調べたことをまとめるときや、行事ごとに自身の取り組みを振り替えさせるときに、文章を書く時間を設定する。また、書いたものを交流する時間を設定していることを先に伝えることで、伝える相手がいるという意識をもたせ、活動に向かわせる。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （社　会）

東京都北区立滝野川第四小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	身近な地域の地理的環境や地域産業や消費者の様子を理解してく際に、調査した結果や提示された資料からの情報を把握したり判断したり、さらには選択する力が不十分で弱さや不安定さが見られる。	身近な地域の様子と自分との関わりを理解させたり、更には自分と家族と地域が繋がっていることをしっかり押さえた上で資料や図から分かること気づくことを丁寧にとらえるようにしていきたい。地域からの自分への恩恵に気づき積極的に関わるように意識を高めて	身近な町会や地域の活動も関連付けながら、学習したことのまとめ方をパソコンで図式化し皆で共有したり、新聞やパンフレット形式にまとめ周囲に発信し伝えていく活動を終末に設定していくようにする。
4年	身近な問題を扱っているため、興味をもって取り組んでいるが、資料の内容を適切に読み取る力には課題がある。資料の内容を適切に読み取るだけでなく、考えをまとめる力を付けることが課題である。	タブレットを活用しながら様々な資料を提示する。内容を読み取って考える機会を増やし、読み取ったことと生活体験をつなげて考えさせるようにする。そのため、気付いたことなどを互いに話し合う時間などを設定し、読み取ったことを共有する活動を通して、活用する力も付けられるようにする。	総合的な学習の時間や宿泊行事の事前調べなど他の学習と関連し、調べ学習を行い、本やインターネットを利用しながら、資料を読み取った内容をまとめる活動を設定する。読み取った内容を表現する力を付けられるようにする。
5年	資料を読み取る力をつけることが課題である。表やグラフから読み取れる事柄を正確に捉え、課題解決に活用する力が十分ではない。	ICTを活用して、資料の写真やグラフ、図などを示し、読み取る活動を増やす。グラフや表の読み方を押さえ、気付いたことや考えたことを伝え合う機会を増やし、理解できるよう工夫する。繰り返し取り組ませることで、資料を読み取る力を養う。	終末活動を工夫する。国語や算数、総合などと横断的な学習を行い、意見文や自分の考えを示すために、複数の資料を読み取り活用し、まとめて、友達と伝え合う活動を充実させていく。
6年	資料を読み取る力を付けることが課題である。どんなことが表わされている表やグラフなのか、どんなことが書かれている資料なのかなど、自分の力で気付くことはまだ十分でない。	教科書の資料を取り上げ、読み取る活動を増やす。グラフや表の読み方を押さえ、気付いたことをまとめる時間を十分に確保する。また、友達と共有することで、理解できるよう工夫する。これを継続していくことで、資料を読み取る力を付ける。	授業の中で複数の資料を活用していく。複数の資料の中から、調べたい事柄が表されている資料を選択する活動を取り入れていく。調べ学習で生かせるようにする。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （算　数）

東京都北区立滝野川第四小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	10の構成がまだしっかりと覚えられていない児童もおり、計算能力には大きな個人差が生じている。また文章題では、「何を問われているか」が読み取れず正しく回答できない児童も目立った。	授業の始めに1分間、計算の時間をとり、繰り返し行うことで計算に慣れさせ、習熟を図る。文章題については、大切なキーワードに下線を引き、どんな式になるか、どのように答えたらよいかを確認しながら進めていく。	早く課題を終えた児童には、自分で問題を作成したり、互いに問題を出し合ったりする場を設けていく。個別に支援が必要な児童においては、具体物や図を活用しながら、視覚を通して考えられるように指導する。
2年	前学年で習得すべき基礎的な内容はこれからも継続して復習していく必要がある。特に、グラフの読み取りや、時計の読み方に課題が見られる。また、問題文が理解できなかったり、読み違えたりしてしまい、誤答や、未回答が目立った。	学習の導入で、前学年の復習を取り入れてから単元の学習に入り、前学年との学習のつながりや、既習事項を生かす学習にする。大切な言葉に印を付けることで、分かったことを全体で共有し、問題文を理解できるようにする。	GUタイムで、基礎的な計算を確実に解けるようにするために、計算問題を解く時間を設ける。日々の生活で時刻を問い、意識的に時計を読む機会を増やす。クロームブックのeライブラリーを活用し、多くの問題に触れさせることで基礎学力を高める。
3年	単純な計算についてはできるが、文章題などの応用になると正答率が下がる傾向がある。文意をつかんで図に表したり、正確に立式することが課題である。また、図形の作図や水のかさなど馴染みの少ない分野の力を強化していく必要がある。	文章題の題意をつかむ際は、分かっていることと聞かれていることに下線を引くなどして焦点化し、スムーズな立式に繋げる。長さや量の計測では、量感を培うことを重視し、他のものと比較しておおよその見当を付けながら考えさせる。単位換算などは学習を繰り返	クロームブックを使った算数の問題作りを行ったり、友達の問題に挑戦させたりすることで、問題解決への意欲を高めていく。課題解決の場面においては、図や式や言葉などで表現した様々な友達の考えに触れさせることで、解き方の幅を広げ、応用力を高めていく。
4年	基礎計算や用語の正しい理解に差がある。既習事項については、その都度丁寧に確かめ学習内容に取り組めるようにする必要がある。時に四則演算については、立式の意味や筆算の数の意味について児童自身が説明するような学習経験を積み重ねることが必要で	習熟度別の学習において、基礎的な部分をフラッシュカードで繰り返したり、生活場面と結び付ける導入問題を設定して理解を高めていく。習熟度の高い児童には、考え方を共有したり説明し合ったりする学習場面を多く設定して、考え方を深めていく。	GUタイムで、基礎的な計算を確実に解けるようにするために、計算問題を解く時間を設ける。クロームブック上のeライブラリーや繰り返しドリルを活用し、どの習熟度別コースの児童でも正確な計算力を高めていく。
5年	習熟度別指導により、2学級3展開で児童の理解度や、スピードに合わせた学習を進めている。基礎的な内容を理解するのに、個別での対応が必要な児童が少なくない。習熟したことを使って自力で解決する力を十分に付ける機会を多く設ける必要がある。発展クラスの児童は、図や絵、言葉を使って論理的に自分の考えをノートにまとめ、説明できるよう、伝え合いの時間を多く設定し、思考力、表現力を高める。	習熟度に合わせた授業展開を行っていく。基礎的な内容を習熟させ、繰り返し問題を解かせたり、考えの説明、伝え合いの時間を多く設けたり、習熟したことを用いて発展的な問題に主体的に取り組ませたりするなど、児童の習熟に応じて授業展開を柔軟に変えていく。	習熟度の高いクラスでは、考えの言語化、図や言葉を使って説明、友達との比較検討、よりよい解き方の精選をさせ、多様な考え方があることを理解し、そこからよりよいものを導き出させていく。個別に支援が必要なクラスでは、教科書の基礎的なレベルの問題に慣れさせ、基礎的な学力を身に付けられるようにする。どのクラスでも、問題演習を重ねて行うことで、知識・技能の定着を目指し、友達との伝え合い、学び合いを通じて思考力、表現力を高めていく。
6年	習熟度別指導により、児童の理解に合わせた学習を進めている。しかし、問題を把握するまでに個別指導を必要とする児童が複数いる。自力で解決する力を高めさせることが必要である。自分の考えを伝え合う時間を設定し、考えを表現する力を高める。	習熟度に合わせた支援を工夫していく。個別支援が必要なクラスでは、パワーアップ講師による支援も加える。また、児童が考えを発表する機会を多く設定し、意見を出し合うことで考えを深めていく指導を行う。	進度が速いクラスは、グループ内で自分の考え方を発表し、よりよい解決の方法を話し合って見付けられるようにする。個別に支援が必要なクラスでは、簡単な数に入れ替えて問題に慣れさせ、基礎的な考え方を身に付けていくようにする。どのクラスでも、問題演習を重ねて行うことで、知識・技能の定着を目指す。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 （理　科）

東京都北区立滝野川第四小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	初めての理科で「物質とエネルギー」と「生命と地球」の二分野で見ると、「身の回りの生物」に興味が高く意欲的に探求する傾向が見られるが、「風やゴムの力の働き」では、嬉々として取り組むが、データが変わる根拠や条件を揃えて違いを確認することの視点の弱さ	今後の植物の育ち方や光や音の性質の学習では、「比較」して調べることに重点を置き、自然の事象や現象について追究しながら、差異点や共通点を軸にして、表やグラフ等も用いて問題点を表現できるようにしてく。	今後の「物と重さ」や「電気の通り道」「太陽と地面の様子」では、興味を持って取り組めるよう、得たデータや結果の数値から何が考えられ、更に発展させていく為には、自分は何ができるのかを考えさせ、操作活動を多く取り入れるようにしていく。
4年	児童が自ら問題を捉えて実験し、解決していくことで、結果を知識に結びつけていることはできている。しかし、必要な語句を暗記する場面や、得た知識をアウトプットする場面がすくないことに課題を感じる。	今後の授業では、必要な語句の定着を図るために、繰り返し指導をしたり、他単元でも内容を想起させる場面をつくったりする。また得た知識をアウトプットできるように、自分の言葉で考えをまとめさせたり、発表させたりする場面をつくる。	知識の定着を図るためにも、様々な日常の場面から理科の学習を想起させる場面をつくる。また、北こん等を活用していくことで、繰り返しの学習をして、基礎的な学力の向上と定着をはかる。
5年	「自然の中の水」や「月と星」など、日常の中で関わりの深い内容については、意欲や知識・技能の定着度が比較的高い。しかし、実験結果を知識に結びつけることが難しいことが分かる。	体験的に学べることが少ない分野でも、問題解決型学習の流れで指導を行い、実験や観察の視点をしっかり把握させてから取り組み、結果、考察を自分の言葉でまとめさせるようにする。学習内容の要点を明確にすることで、児童の思考が整理されるような授業展開を行っていく。	観察や実験を通してわかったことや疑問点をICTを活用して、まとめ、友達と共有し、身近な自然事象への関心を高めていく。動画、写真や絵、表やグラフを活用し、意欲を高め、生活体験の中にある疑問を学習の課題として調べていけるようにしていく。
6年	問題解決型学習の流れで指導している。実験の方法を考える際、「条件制御」に注意させ、調べたいことを明確にしている。既習内容において、理解が不十分である内容については、実際の実験結果と結論を結び付けられていないことが原因と考えられる。	実践している授業の流れを継続し、理科的な思考力をさらに高めていく。特に、実験方法の検討を重点的に目的意識をもって実験を行えるようにする。理想とする実験結果が出なかった際には、その原因を考え、正しい結論を導き出せるように指導する。	自分たちで課題を見付けて設定し、それを解決するための方法を考え、実行するという課題解決型の学習を多く設定する。生活体験や既習事項の中から問題を設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。既習事項の振り返りも取り入れ、定着を図る。